

週間火山概況（平成 23 年 5 月 27 日～平成 23 年 6 月 2 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（5 月 27 日～6 月 2 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 6 月 2 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、阿蘇山、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（6 月 2 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

みやげじま

三宅島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

噴煙高度は、火口縁上100～300mで経過した。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。

31日に行った現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり900トン（前回5月13日、600トン）と、やや多い状態であった。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。

いおうとう

硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

地震活動は、2011年2月末頃から高い状態が続いている。

国土地理院の観測によると、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から12月にかけて一時鈍化した。2011年1月末頃から隆起速度が増加している。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくおかのば

福德岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われなかった。これらの機関のこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

あそさん

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

中岳第一火口では、5月15日以降、ごく小規模な噴火が発生している。噴煙高度は火口縁上100～400mで、特段の変化はない。また、同火口では31日に夜間に高感度カメラ¹⁾で確認できる程度のごく弱い火炎現象²⁾を観測している。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

気象庁及び国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、火山活動に伴う変化はみられない。

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

きりしまやま

しんもえだけ

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

新燃岳では、4月19日以降噴火の発生はない。

火山性地震は、増減を繰り返しながらやや多い状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

31日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩に大きな変化はなかった。白色噴煙は、主に火口縁辺の南東側から火口縁上100m程度上がり、南東に流れていた。

傾斜計⁴⁾では、火山活動に伴う大きな変化は認められなかった。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、新燃岳の西側を中心に2月1日以降わずかな伸びの傾向がみられている。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、大きな噴石³⁾と火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）に注意が必要である。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）が新燃岳火口から10kmを超えて降っている。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要である。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が22回発生し、大きな噴石³⁾が4合目（昭和火口より800～1,300m）まで達した。同火口では夜間に高感度カメラ⁶⁾で確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震は少ない状態で経過し、噴火に伴う火山性微動が時々発生した。

30日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり1,100トン（前回5月9日、900トン）とやや多い状態であった。

31日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの調査では、昭和火口の火口底に赤熱した溶岩を確認した（図2）。今回確認された溶岩は少量であり、現在まで、火山灰の噴出物量や地殻変動に特段の変化はないことから、大量のマグマが桜島直下に移動した可能性は低く、ただちに火口外に溶岩を流出することはないものと考えられる。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられている。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。



図2 桜島 昭和火口内の状況（5月31日）

火口底に溶岩（図中赤丸）が上昇している様子が認められた。また、溶岩中央部に赤熱した部分が認められる。

さつまいあうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山性地震は、少ない状態で経過した。硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや高い状態が続いている。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾に注意が必要である。

すわのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では、今期間噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震は少ない状態で経過した。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾に注意が必要であ

る。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

くさつしらねさん

草津白根山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

27日00時31分頃に火山性微動が発生し、その後同日08時頃まで、湯釜の南付近を震源とする火山性地震が増加したが、その後、微動は観測されず、地震活動は収まっている。

27日に実施した現地調査では、霧雨のため湯釜火口内を確認することはできなかった。また、28日に東京工業大学が実施した現地調査では、湯釜及びその周辺に異常はみられなかった。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、この微動に伴う変化は認められなかった。

今期間、遠望カメラにより湯釜北側噴気地帯の噴気孔からごく弱い噴気が時々観測されるなど、山頂火口周辺では引き続き熱活動がみられている。

山頂火口から概ね500mの範囲では、火山灰の噴出等に警戒が必要である。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

ふじさん

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

3月15日（期間外）の静岡県東部（富士山の南部付近）を震源とする最大震度6強の地震の後、余震活動は低下しながら継続しており、今期間、最大震度1を観測する余震が1回発生している。火山性微動や低周波地震は観測されなかった。また、その他の観測データで浅部の異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められない。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

- 1）阿蘇火山博物館が中岳第一火口縁に設置したカメラによる。
- 2）熱せられた噴出物が炎のように見える現象である。
- 3）噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4）火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 5）霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 6）九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

注）データについては精査により、後日修正することがある。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒
レベル4（避難準備）		入山危険
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）		平常
レベル1（平常）	噴火予報	

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。